

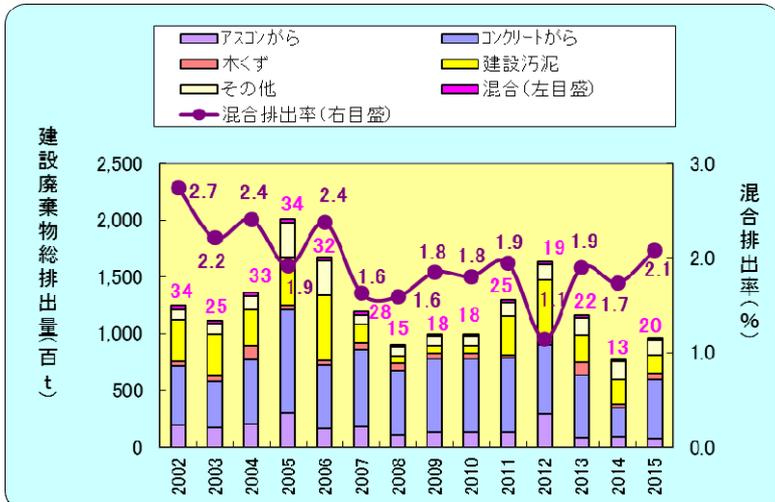
建設廃棄物の発生抑制及びリサイクル推進への取組み

当社では、建設リサイクル推進計画2014(国土交通省)に対応し、

建設リサイクル推進活動【発生抑制、リサイクル推進、適正処理】

を通じて、環境負荷の低減や建設副産物の有効利用に取り組んでいます。

① 《建設廃棄物 混合排出率 推移》

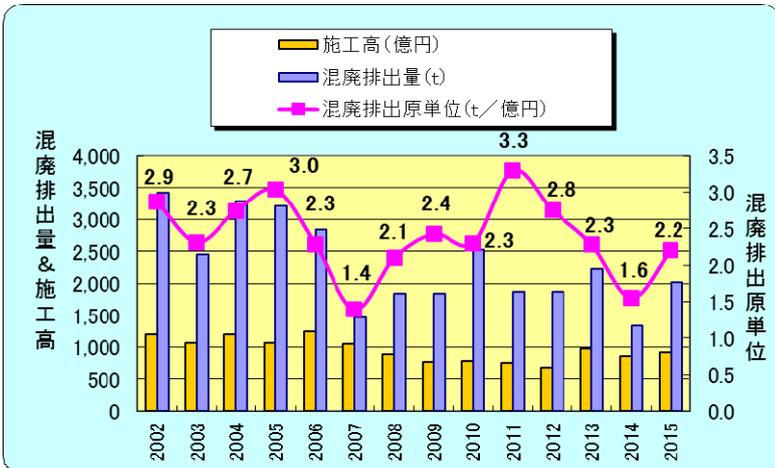


1) 発生抑制への取組み状況

国土交通省の「建設リサイクル推進計画2014」では、建設混合廃棄物2005年度排出量に対して、2015年度目標を **40%** 削減と、基準年度を含めた目標値が変更されている為、当社の基準年も2005年度に改め、資源循環型社会への貢献を推進していきます。

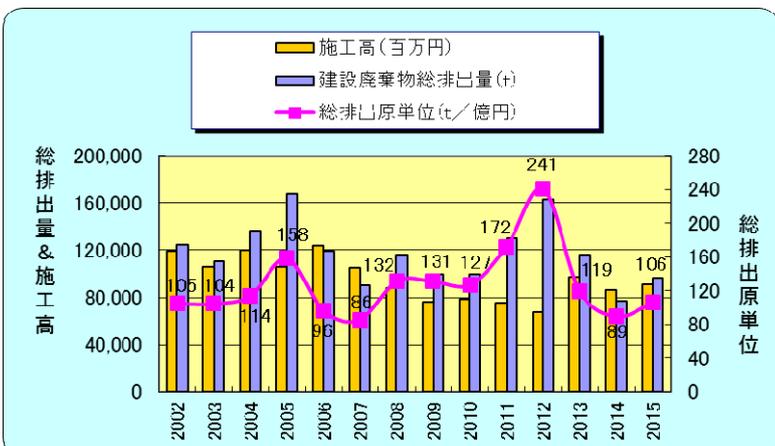
初めに、(グラフ①)2015年度 総排出量 (966 百t) に対して、混合廃棄物 (20 百t) の排出割合は **2.1%** と平年よりやや高い数値となりましたが **2005年度 (34 百t) 比では、41% の削減で推移** しています。

② 《混合廃棄物 排出原単位推移》



次に、(グラフ②)2015年度の混合廃棄物排出原単位は **2.2 t/億円** となり、**平年並みの水準** となりました。今後も、産業廃棄物の分別管理を行い混合廃棄物の排出削減に努めます。

③ 《建設廃棄物 総排出原単位 推移》



後に、(グラフ③)2015年度の建設廃棄物総排出原単位は、**106 t/億円** となり、**平年より良い水準** となりました。建設廃棄物の排出抑制(Reduce)は順調に進んでおります。

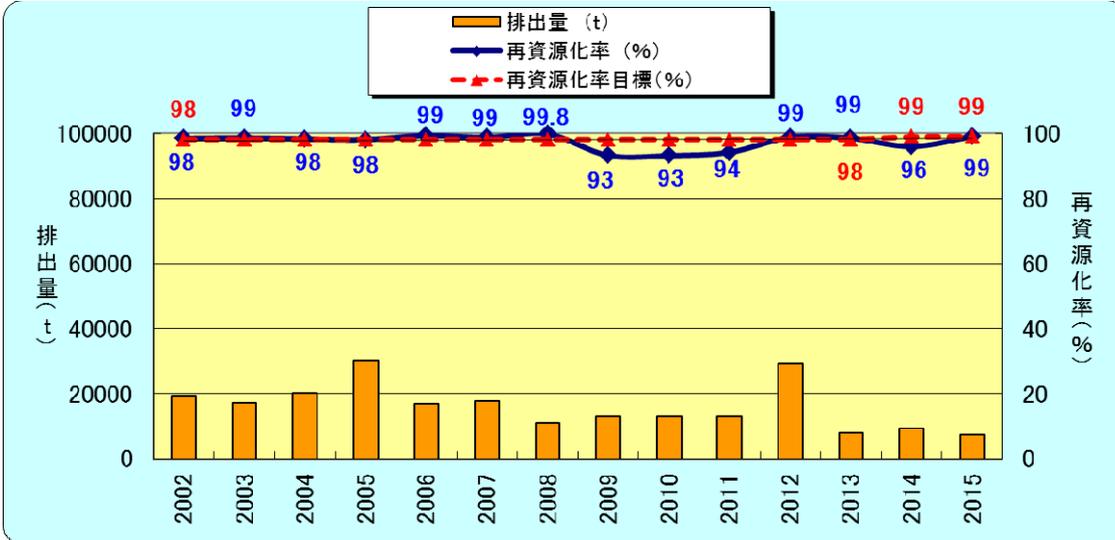
今後も、建設混合廃棄物の発生量抑制を基本ベースとして環境活動に取り組んでまいります。

2)リサイクル促進への取り組み

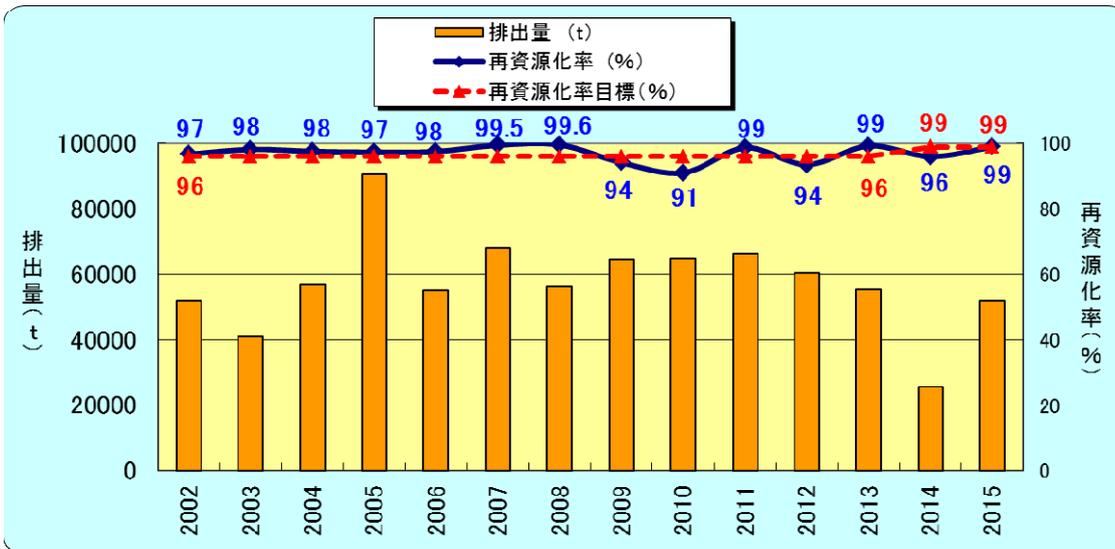
「建設リサイクル推進計画2014」(国土交通省)では、主な建設廃棄物について、【再資源化／縮減率】の2018年度目標値を設定しています。(赤破線、赤数字で示す)

当社において2015年度は、アスファルトコンクリート(グラフ④)、コンクリート塊(グラフ⑤)、建設汚泥(グラフ⑥)は目標達成となり、建設発生木材(再資源化・縮減率)(グラフ⑦)、建設廃棄物全排出量(再資源化・縮減率)(グラフ⑧)は若干の未達となっていますが、目標値に近い数値で推移しています。

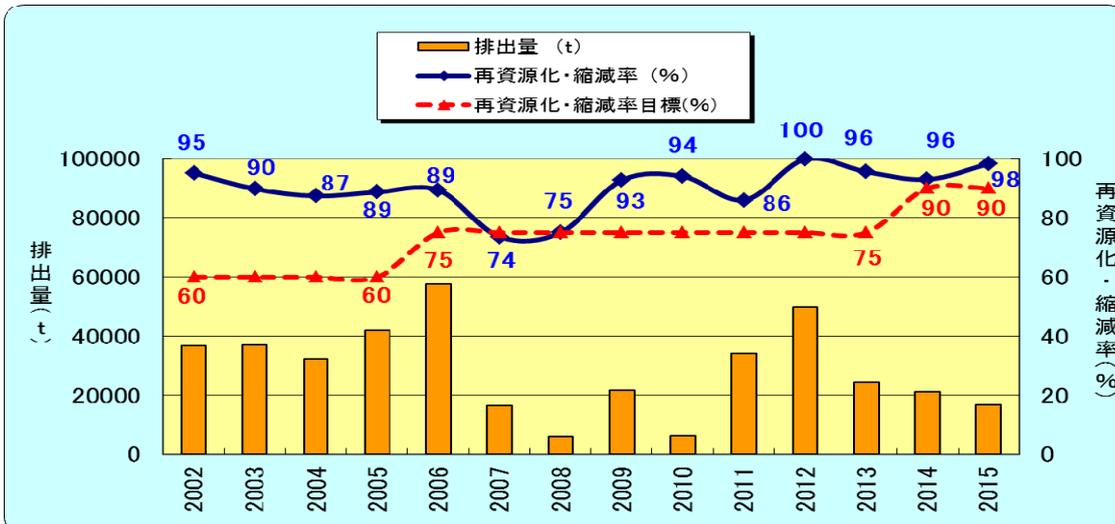
④ ■アスファルトコンクリート 排出量 再資源化率推移



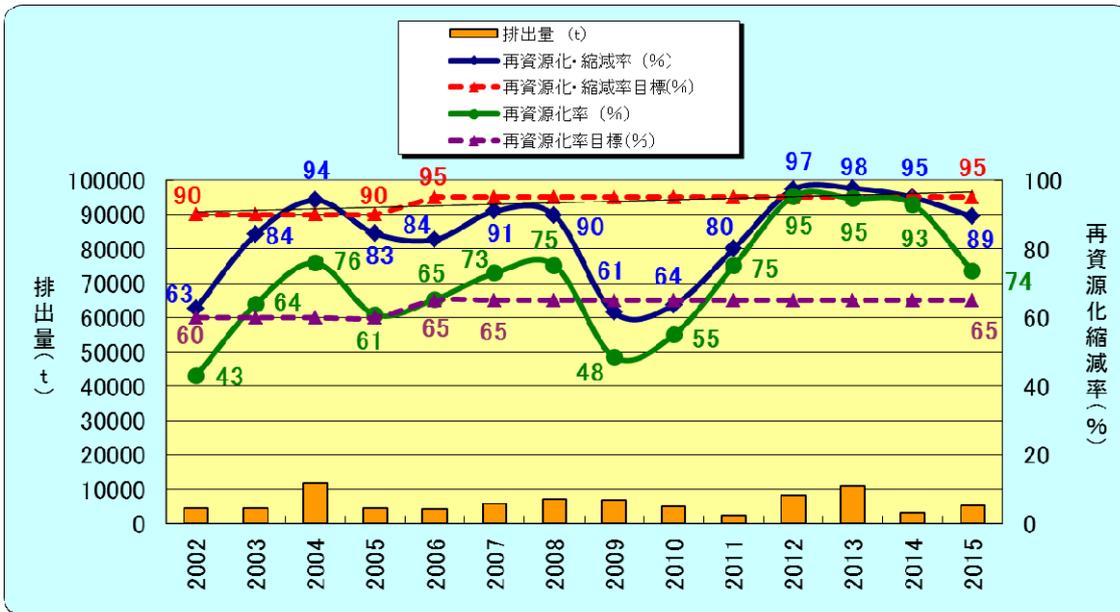
⑤ ■コンクリート 排出量 再資源化率推移



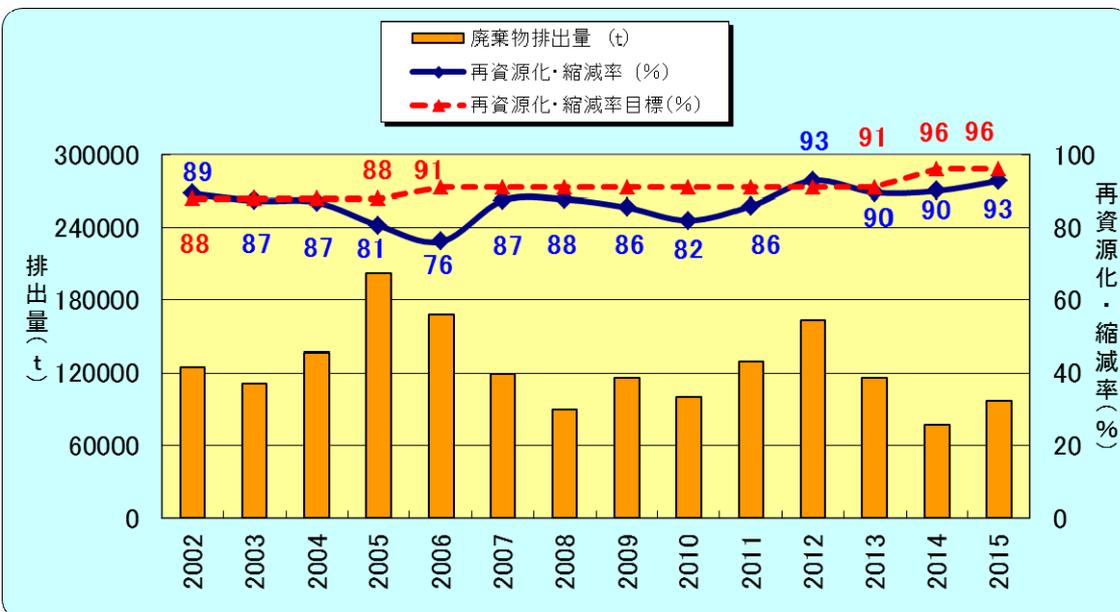
⑥ ■建設汚泥 排出量 再資源化率推移



⑦ ■建設発生木材 排出量 再資源化・縮減率推移

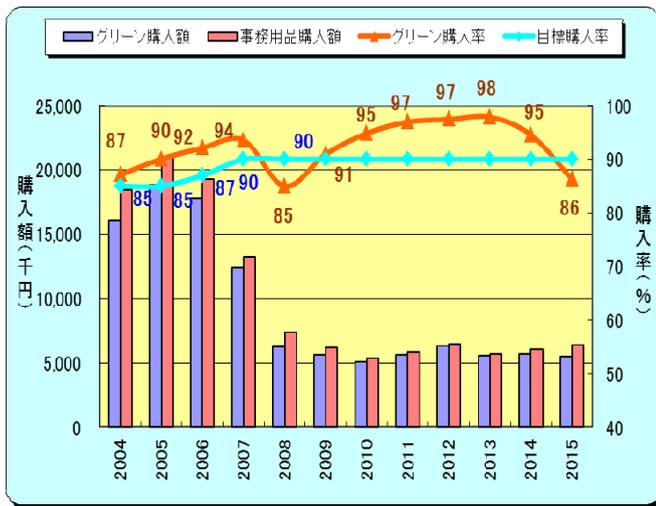


⑧ ■建設廃棄物 全排出量 再資源化・縮減率推移



今後も環境保全に配慮した対策・工法を考え、リサイクル活動を続けていきます。そして、未来の社会が継続的に発展するように貢献してまいります。

⑨ ■オフィス部門 事務用品 グリーン購入率推移



注) 対象品目: 文具類、プリンタートナー、OA用紙、名刺台紙

(2008年1月から3月までの名刺台紙と2008年1月からOA用紙の購入実績を除く)

なお、2015年度はプリンターの最新機種を導入した影響で環境対応品のトナーが発売されていないため。

3) グリーン購入推進への取組み

オフィス部門では、事務用品(グラフ⑨)のグリーン購入を推進し、グリーン物品の使用に努めています。

事務用品の調達では、物品を購入するときに、必要性を十分考えて購入するように心掛け、価格、機能、品質だけでなく、環境への視点を重視し、環境への負荷が出来るだけ少ないものを選んで優先的に購入しています。

⑩ ■オフィス部門 電力使用率推移



4) 地球温暖化防止への取組み

環境目標以外に、本・支店において電力使用(グラフ⑩)の低減活動を推進し、地球温暖化に繋がる二酸化炭素(CO2)排出の削減に努めています。

2005年度実績比では約 **34.8%** の節電となりました。これは「杉の木」のCO2吸収量に換算すると約 **17300本分** に相当します。

また、CO2削減重量では**240t** (ダンプトラック10t車24台分に相当)、CO2削減容量では**123000m3** (プール**270個分**に相当)になります。

(※プール: 25m×15m×1.2m)

今後も、環境へ配慮した環境活動に取り組んでまいります。

